

読み

ばんかん 盤桓	きゅうあい 宮娃	きょうわ 叶和
けこ 筥子	たいせい 碓声	
しゅうりょう 酋領	おゆう 於邑	でいそ 禰祖
きよほうへん 毀誉褒貶	まゆみ 檀	けっけん 蕨拳
きか 葵花	ほこ 戟	あしび 葦火
そうい 叵圉	しょきゅう 渚宮	せいしゃ 貫赦
のぶとい 篋太い	しょうせん 摺扇	ようしゅん 鷹隼
わりゅう 窪隆	せんけん 嬋娟	くろがし 黒樞
さいわい 禄い	たのむ 負む	

書き取り

けいかく 圭角	にじます 虹鱒	よとぎ 夜伽
きんかい 欣快	かんじょう 勧請	
いおり 庵	けいせき 珪石	りんさん 燐酸
むしず 虫酸	さけます 鮭鱒	かもい 鴨居
はぐ 矧ぐ	ちょうし 銚子	つまはじき 爪弾き
きすう 帰趨	しょうのう 樟脳	
しょうちゅう 掌中	とうかんし 等閑視	かんぜん 間然
ゆかり 縁	ほうが 奉加	しょうつき 祥月

いきんかんきょう 衣錦還郷	出世して故郷へ帰る
すいほんそげん 推本遡源	物事の根源を探し求める
けいえいいちによ 形影一如	仲睦まじい夫婦
しんしほしゃ 唇齒輔車	一方が減れば他方も成り立たなくなる
てんちようちきゆう 天長地久	天地は永遠である
せきたんすんちよう 尺短寸長	誰にでも長所と短所がある
がいかんじてい 蓋棺事定	死んだあとで人の評価が高まる
おうどうらくど 王道楽土	王道により政治が行われ平和で理想的な土地
さんがきんたい 山河襟帯	山が襟、川が帯となり自然の要害となる
さいしかじん 才子佳人	理想的な男女の取り合わせ
ざがこうほ 坐臥行歩	立ち振る舞い
しょうじじだい 生死事大	生死を越え、悟りを開くことは今しかない

いちりゅういっちょ 一竜一猪	学ぶ者と学ばぬ者との差は大きい
けいべんほきゆう 刑鞭蒲朽	世の中が平和に治まる
ちようれいまめつ 凋零磨滅	学問芸術などが滅びてなくなる
せんぺきいんこう 穿壁引光	苦学のたとえ
しべんしょうしつ 資弁捷疾	生来、言葉巧みで行動が機敏
どかいぼうし 土階茅茨	宮殿の質素なさま
ゆげざんまい 遊戯三昧	何ものにもとらわれない自在な境地
りゅうちょうこが 竜跳虎臥	筆勢が自在
そざいしんよう 楚材晋用	才能ある人が他所に流出する
あいごせいもく 相碁井目	何事にも人には実力差がある
たいざんりょうぼく 泰山梁木	賢哲を尊んでいう

六親和せずしてコウジ孝慈あり

難に臨みて兵をイ鑄る

尺璧を貴ばずしてスイイン寸陰を重んず

セイトク盛徳の士は乱世にうとんじられる

千里の馬は常に有れどもハクラク伯楽は常には有らず

シツクイ漆喰の上塗りに借金を目塗り

キョウゲン郷源は徳の賊

人はギョウシュン堯舜にあらず…

カンジン姦人の前には機巧を言うことなかれ

一敗地にマミ塗れる

焼けボックイ木杭に火がつく

タブン多聞を友とするは益なり

^{セキヘキ}
尺壁宝に非ず寸陰是競う

^{トチュウ}
尾を塗中に曳く

^{シヤク}
至貴は爵を待たず

^{カンタン}
肝胆相照らす

^{トウリ}
桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す

^{ホンケ}
本卦還りの三つ子

^{キコ}
騎虎の勢い

盲亀の浮木、^{ウドンゲ}
優曇華の花

^{ヨウリュウ}
楊柳の風に吹かるるが如し

^{エツボ}
笑壺に入る

陰徳あれば^{ヨウホウ}
陽報あり

人を犯す者は^{ランボウ}
乱亡の患いあり

タクアン
沢庵のおもしに茶袋

一片のヒョウシン氷心玉壺にあり

口中のシオウ雌黄